

小美玉市の歴史を知ろう⑥

(四世紀)の有力首長であることが分かるのです。

羽黒古墳

古墳と言えば、玉里地区が有名です

が、園部川をさかのぼり、美野里の竹原地区に入ると、突如として六十mに近い前方後円墳が現れます。美野里地区では最大規模を有する前方後円墳、

羽黒古墳（はぐろこふん）です。

前方部と呼ばれる部分が細長く後円部に比べて高さが低い形状をしている

のが特徴で、古墳時代前期（四世紀）の典型的な前方後円墳です。

四世紀後半に築造された古墳と考えられ、前に紹介した玉里の権現平二号墳より約半世紀後に築造されたもの

もう一つは、この古墳が所在している立地です。羽黒古墳は園部川河口から七kmほどさかのぼった所にあります。つまり、比較的内陸の地にあるわけです。

実は、この時期の大形古墳は内陸部にあるものが比較的多いです。これは、何を意味するのでしょうか？

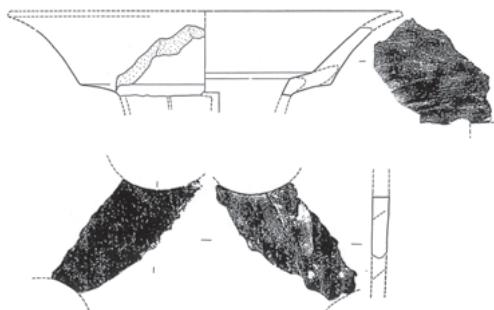
その解釈の一つとして耕地、とりわけ水田の開発が、内陸部を中心に行なわれていったことが考えられます。内陸の低地は、河口部や海浜部に比べると、洪水などの自然災害がそれほど多くなく、しかも、灌漑設備なども作りやすい地であつたと考えられているのです。

古墳時代前期は、南関東や東海、畿内などの先進地から人が移動し、そうした人達から先進的な技術が一気に入りました。

大変重要な古墳であります。

一つは、壺形、器台形と考えられる初期の埴輪が採集されていることです。実は四世紀後半という時期、それほど埴輪が大量に生産されることなく、ある一定レベルの首長の墓じやないと、埴輪が置かれません。つまり、羽黒古墳に葬られた首長がある程度広域を支配する（園部川流域ぐらいの範囲でしようか）、古墳時代前期

（四世紀）の有力首長であることが分ります。つままり、比較的内陸の地にあるわり、耕地開発が進んだ時期と考えられていますが、このような内陸部に、いち早く、水田開発が進んでいたことが、この羽黒古墳の存在から分かるのです。



羽黒古墳出土の古墳時代前期埴輪



羽黒古墳の全景

この羽黒古墳は、測量調査が行われただけですので、詳細は分かつていな
いのですが、小美玉市の歴史を知る上
で、大変重要な古墳であります。

一つは、壺形、器台形と考えられる
初期の埴輪が採集されていることだ
す。実は四世紀後半という時期、それ
ほど埴輪が大量に生産されることなく、
ある一定レベルの首長の墓じやな
いと、埴輪が置かれません。つまり、
羽黒古墳に葬られた首長がある程度
広域を支配する（園部川流域ぐら
いの範囲でしようか）、古墳時代前期



竹原小学校遺跡出土埴輪

情報が少なく、それを断定するには至りませんでしたが、とても興味深い成
果が上がりました。

羽黒古墳は、市指定史跡であり、現
在公園として整備されています。一度、
足を運んで遙か古代の、有力首長に想
像を巡らしてみるのもいいかもしれません。尚、羽黒古墳採集および竹原小
学校遺跡出土の埴輪は、小美玉市玉里
史料館にて保管されています。

（次回の掲載は7月号です）